

「スピーチ」について

江口 春菜

私は模擬国連という活動で扱った人身売買をテーマに、英語スピーチを行いました。このスピーチには、二つの思いがこもっています。

人身売買は、ただその恐ろしさ、切迫性、深刻さを知り、怒りや悲しみを共有するだけでは現状に対する変化が望まれない問題です。正しい知識を持ち、一人一人が状況を改善しようとする行動をとることが大切です。人身売買の正しい理解のための、教育によって助けられる命もある、という事実を多くの人に知ってほしいという思いをスピーチの中で訴えました。

模擬国連という活動を知ってほしい、と感じたのもこのスピーチに込めた思いの一つです。模擬国連では主観的に物事を見るのではなく、自分が担当する国の立場に立って考えることが求められます。そして、様々な国が協力し、話し合い、問題に対する解決策を提示します。この活動を通して、他者の立場で考え、公平な解決策を導き出すことの難しさと大切さを学びました。複雑な問題を互いに交渉しあい、すべての人が納得するような解決策を模索するのは、とても楽しく、多くの人に体験してもらいたいと思う活動でした。

人身売買に対する怒りややるせなさだけでなく、模擬国連などの教育機会が与えてくれるこれらの思いを、自分の表情や声の強弱でどのように表現すれば聞いている人に伝えられるか最後まで悩みましたが、練習を重ねこの問題点を乗り越え、スピーチを良い形で終えることができました。

世界には、人身売買だけではなく私が聞いたこともないような問題が山積みだと思います。私はこれからもずっと、それらの問題と向き合い、行動していく姿勢を持ち続けたいです。